



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

平成23年度 第4回全体研修

開催日時 平成24年1月28日(土) 13時30分～16時50分

開催場所 岩槻駅東口コミュニティセンター ワツルルームA

「第4回全体研修」は、梅光学院大学
子ども学部子ども未来学科 准教授

吉島豊録氏をお招きし、「アローチャ
ートでケアマネジメント」を相談援助者の
ための頭の整理術についてご講演いた
だいた。

講演は、「ニーズの構造とアセスメン
トについて」と「事例をもとにアロー
チャートを描いてみる」という内容で
あった。

吉島氏から、「ケアマネジャーなら誰で
も知っている」「ニーズ」や「アセスメント」

を自分の言葉で説明できますか?と問い
かけがあった。

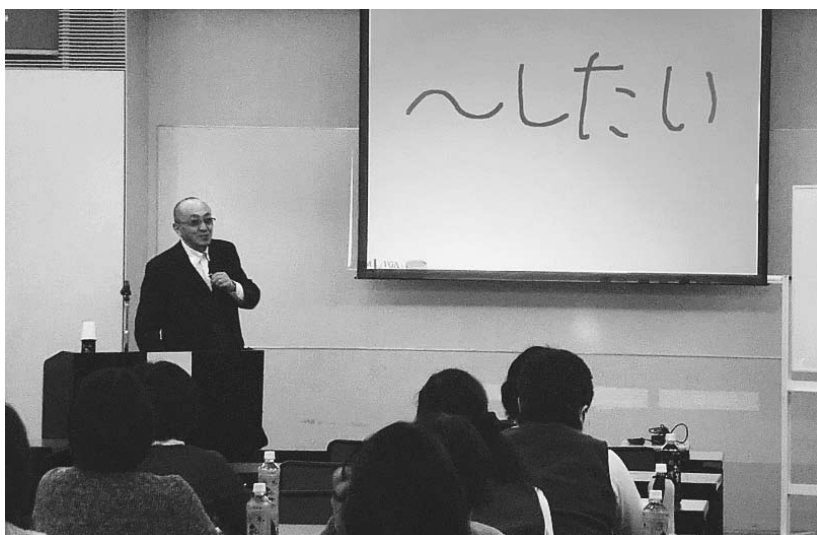
ニーズとは、その人の願いや望みであ
る。ケアプラン上では「○○したい」と
あらかず。目に見えない(写メに撮れな
い)ものであり、何かの下に隠されてい
るかもしれない。時に形を変え、揺れ動
くものである。それゆえにモニタリング
が必要であるとのこと。

アセスメントとは、情報を集め、分析
することである。情報には、目に見える
客観的事実(病名、体の状態など)と、

アセスメント

Vol,25

2012年春号



目に見えない主観的事実（その人の感情、考え、価値観など）がある。

これらの情報と情報の間に、原因と結果の関係（○○ので○○）はないのか考えていく。関係性があつたとき、原因から結果に向けて矢印で結ぶ。また、相容れない関係（○○けど○○）同士は、抗う意味の波線で結ぶ。これをアローチャートという。

情報の関連性を、ケアマネジャーが自分自身に説明するための作業であるとのこと。

次に、脳梗塞で右片麻痺の後遺症が残ってしまった事例をもとに、アローチャートを描いてみた。

自分なりにアローチャートを完成させて、周りの人達と話し合った。作成してみると、ニーズや長期目標や短期目標が見えてくる。

吉島氏はアローチャートのアプリを開発中で、5月には配信予定とのこと。

普段は6時間以上かかる内容を、3時間に凝縮した中身の濃い研修であった。興味深い内容に加えて、吉島氏の人柄と下関弁が心地よく、3時間の講演はあつという間に感じられた。

大宮区ケアマネサロン

「事業所力を高める Party」

開催日時 平成23年12月15日（木） 15時00分～16時30分

開催場所 （社福）さいたま市社会福祉協議会

大宮サービスセンター 2階A会議室

今回は、講師に、大宮 空欄が多いので、充実し区役所高齢介護課の町田 区役所高年齢介護課の町田 多恵子主事と石田信主事をお迎えし、ケアプラン チェックのポイントについて、お話を伺った。出席者は10名（8事業所）だった。

区役所では、毎年、ケアプラン点検を実施しているが、主旨は指導ではなく、第三者の目を入れて、ケアマネジャーの気持ちをお促していくことにある。「誰が見ても分かるように、分かり易い言葉で細かい情報も入れ、詳しく書いて欲しい。ほんの些細な事から、利用者の独自性が見えてくる。」「事業所によつては、アセスメントの

『アセスメントシート』『住宅サービス計画書』『サービス担当者会議の要点』のポイントについて説明があった。

質疑応答では、ケアマネジャーから、「受けた研修によって、居宅サービス計画書についての説明が違い、ケアマネジャー同士で混乱してしまうことがある。」という意見が

出された。これに対しては、厚生労働省のホームページに載っている『分析表』に基づいて考えていけば良いのではないかということだった。

今回の研修を受けて、ケアプランの項目のひとつひとつには、援助者が適切に利用者を支援していくための深い意図がある。努力をしなければと思う。

北区・西区合同ケアマネサロン

「特養相談員交流会」

開催日時 平成24年1月19日（木） 15時00分～16時30分

開催場所 プラザノース3階 第3セミナールーム

第2回北区・西区合同ケアマネサロンは、「特養相談員交流会」と題して、特養相談員7事業所11名と、居宅ケアマネジャー13名の参加により開催された。

初めに、特養相談員から、施設紹介や相談員の自己紹介などについて話



ループに分かれ、相談員とケアマネ交流会を行った。顔なじみの相談員さんや、初対面の相談員さんとも、楽しい雰囲気の中で、普段言えない相談や質問、この際聞いておきたいこと、などなど、本音トクで盛り上がった。各グループで、盛り上がった内容

としては、「施設ケアマネと居宅ケアマネの連携について」「頑張っている稼働率」「本人が施設を嫌がるが、家族は強く希望しているときはどうしたらいいのか・・・」「家族がいない時の申し込み方」「難病の方の受け入れについて」などなど、本当に、知って得する話、業務にすぐに役立つ情報ばかりで、時間を延長したいくらい充実した交流会であった。

今回の「特養相談員交流会」は、ケアマネの、大切な情報収集として、また、横のつながりを作るためにも、有意義なサロンであったと実感している。閉会後も、特養相談員同士で話が尽きない様子も見られ、次回のサロンの企画、開催を、さらに盛り上げたい、という気持ちにつながった。今後も、参加したケアマネが、大満足と思えるようなサロンを、開催していきたいと思う。

浦和区・緑区・南区合同ケアマネサロン

「介護保険法改定の概要」(具体的な対応について)

開催日時 平成24年2月14日(火曜日) 14時00分～16時30分

開催場所 浦和コミュニティセンター(浦和パルク10階)



事業者の説明を求められる場面も多いと感じる。そこで今回は大きな改定目前の2月、浦和区、緑区、南区合同での開催とした。

南区28名、緑区9名、浦和区26名に加え北区1名、戸田市1名の計65名での開催であった。今回も新規加入希望者が4名ほどおり、来年度に向けて嬉しい限りである。

W改定という大きな改定ということもあり、平成10年に大変好評であった「ケアプラン点検支援マニュアル分析表」の講義をしていただいた「ウエルネスケア・ビジネスアカデミー」に依頼を行った。講師には斎藤幸三氏をお招きしてご講義いただいた。

講師である斎藤氏は、各審議会を傍聴するなどされてお

り、単に発表された内容を説明するのではなく、今回の法改定に至った経緯や背景、反対意見や今後の方向性まで含めた解説を加えて下さり、非常に分かりやすいものであった。また自身もケアマネジャーの資格も持っていることもあり、ケアマネジャーとして留意することなどについても細かくご講義いただき大変参考になった。

23年度の介護事業者経営実態調査の結果など解説もあり、居宅支援事業だけが全介護事業の中でマイナス26%と、居宅は特定加算をつけていかなどと厳しい状況なども付け加えていただいた。質疑応答の時間でも現場に即した活発な質問が多くでした。今後詳細が発表になると思うが、前もって今回のような経緯や背景が分かると、より介護保険の仕組みや目的が改めて良く分かった有意義な会であった。

桜区・中央区ケアマネサロン

開催日時 平成24年2月24日(金)

開催場所 さいたま市プラザウエスト

第2セミナールーム



今年度2回目のケアマネサロンは、「精神疾患を抱える利用者や家族とどう関わるか」というテーマで、浦和加戸千春氏より、精神科デイケア「桜」と地域包括支援センターナーシングヴィラ与野の黒川愛氏(中央区幹事)より、埼玉精神神経センター精神科デイナイトケア「萌木の

風」をご紹介いただいた。参加されたケアマネジャーは精神科デイケアについては馴染が少なく、話題に興味深く話を聞かれていた。最初に自己紹介とともに現在抱えているご利用者・ご家族の対応について困っていることに関して互いに発表しながら和やかにサロンが始まった。

① 精神科デイケアについて

精神疾患を持つ方は、昼夜逆転など生活時間の乱れなどが原因となり、服薬管理を含め治療に支障が出てしまい病状が悪化したり、沈静化していたものが再発してしまう場合もある。そこで、デイケアでは本来の規則正しい生活に戻し、他者との交流を通じ心身ともに穏やかに安心して生活を過ごすことができるようなプログラムが実施されている。また、利用者個々の目標に応じて就労支援なども行なっている。

② 活動内容について

精神科デイケアは事業所ごとに特徴があり、運動や文化的な活動を効果的に実施し、利用者の目標に向かって積極的に取り組まれている様子が窺えた。具体的な活動内容として、カラオケ・アロマセラピー・陶芸・ヨガ・フットサル・クッキングなど多岐にわたるSST(考えをまとめ、相手へ上手に伝える練習)という活動も実施されている。

職員は看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・保健師が中心となり健康管理や自立生活技能改善プログラムが実施されている。

③ 利用者構成

精神科デイケア「桜」は大きく二つに分かれており、社会復帰を目的にしたグループと病状の進行を予防・改善するためのグループがある。年齢構成は10代〜80代までと幅広く、平均人数は20名前後とのこと。

④ まとめ

利用者の身体状況や病状に合わせたプログラムを計画していただける。また、プログラムを円滑に進めるために、活動を充実させるとともに利用者との職員の信頼関係づくりに力を入れていく。

最後にグループに分かれ、ケアマネジャー

岩槻区・見沼区合同ケアマネサロン

「自分を知る事で自分を守る」

心の負担を少しでも軽くし、ゆとりの支援へ

開催日時 平成24年2月15日(水) 14時00分〜16時00分

開催場所 七里コミュニティーセンター 第四集会所

今回のサロンは、介護専門員業務もされている「こころの休憩室」担軽減に着目し、認定心理士であり、介護士を講師にお招きした。



メンタルヘルスの講義では「一部:自己の性格傾向を知る」「二部:ストレスとの上手な付き合い方」「三部:円滑な人間関係を作るには」についてお話しいただいた。

一部では、講師が読

み上げる質問に対し、「はい、いいえ」で答え、チェックを付けていき、それをグラフに落とし、人それぞれのグラフができ上がった。代表的なラインを取り上げ、

自分の性格傾向、マイナス面、プラス面、人との関わり方などについて振り返ることができた。

飯田氏より、性格判断、心理テストなどを行う時は、必ず振り返りをすることが大切で、ただのチェックだけでは、自分もしくは他者が結果のみを見て、そういう性格の人であると決めつけてしまい、判断してしまいがちになるからとのこと。

二部では、4つのポイント(①自分自身を知る、②食生活の充実、③休養を取る、④積極的に体を動かす)につ

いてお話があり、性格傾向などは環境や生活などの改善により変わるものであり、テストは現状の心理傾向と考

えることが大切とのこと。三部では、円滑な人間関係を作るために、ストロークマインド^①「自他の存在価値を認めるための言動や働きかけ」

が必要で、人は生命活動の根幹として「人から認められたい」という欲求をもっている。ストロークは、「身体的ストローク」「心理的ストローク」「言語的ストローク」があり、プラスのストローク(無条件、条件付)は人を幸せにし、マイナスのストローク(無条件、条件付)は人に不快感を与える。

肯定的(プラスのストローク)を無条件に受けている人に限り、

施設介護支援専門員研修会の報告 「気づきの事例検討会・ICFによる分析的理解とリフレクション」

開催日時 平成24年2月18日(土) 13時30分～17時00分
開催場所 介護老人保健施設尚和園アンシャンテ



という投げかけから始まり、「大切だ・必要だと分かっているけどなかなか実践できない・準備が大変!・時間が無い!方法が分からない!」など、やはり共通の悩みを抱えていた。

今回は、まさにその悩みを解決するべく、サブタイトル「簡単に出来る事例検討」ということで、浦和しづや苑の五月女恵子氏提供のひとつの事例を通じて、「自分の抱えている事例を解決しちゃう!」ことに取り組んだ。

事例検討というところ、皆さんはどんなイメージを持っていますか? プワークを通じて、学びの楽しさを再発見・

個人ワークとグループワークを通じて、学びの楽しさを再発見・



ちょっと coffee break

「ケアマネ協会の縁でNご夫妻が叶えてくれた、T氏との会談」 会員Y

昨年ケアマネ協会のNご夫妻のお心遣いにて、元プロ野球選手のT氏と会談の場をいただいた。

小学生から野球を始め、早々にプロ野球選手の夢を挫折した自分ではあったが、もと高校球児の私にはプロ野球選手は憧れの人だ。

きっかけはご主人のN氏とのちょっとした会話を、N氏が実現してくれたのだが、N氏は私の大先輩である。

そんな大先輩のN氏が、私とのちょっとした会話を覚えていてくれたことにとっても感動し、元プロ野球選手との会談に、ケアマネ協会の象徴である後輩のAと胸躍らせ会場へ。

少ししてから現れたT氏は身長こそ、私とそんなに変わらないのに、明らかに違うオーラを放し、私は一気にT氏のオーラに飲まれてしまった。

T氏は、ヤクルトスワローズに高校卒業後入団。現役時代は強打者として活躍した名外野手だ。引退後は、ヤクルトスワローズの直轄の少年野球チームの監督として、子供たちの夢の担い手として尽力されている。

私は、子供が昨年、地元の少年野球団に入団したのをきっかけに、コーチとして育成指導をすることになったので、いろいろご指導いただくとうたくさんの質問を考えていたが、スーパースターのオーラは、いつしか懐かしく、また恐ろしい感覚に変わり、質問ができなくなった。

懐かしく、恐ろしい感覚・・・野球部に限らず、運動部に所属した方なら誰もが経験した「体育会系」の上下関係だ。

初対面であるT氏に感じた、スターのオーラと手に汗握る上下関係の緊張感、恐怖というと語弊があるかもしれないが、実はたまらない感覚なのだ。

直立不動になり、疑いもなく話しに聞き入る。理不尽なことであっても、「はい、分かりました！」の独特の世界。運動部出身でない方には滑稽な光景かもしれないが、それが当たり前として育った自分には何とも、嬉しい感覚だった。

その2つのオーラを感じつつも、その場を和ませ、同じ席で同じ目線で話をしてくれるN先輩ご夫妻とT氏・・・。緊張から何も話ができなかった私とAは、いつしかT氏に少年野球の指導についていろいろご指導をいただいていた。

話がいろいろと飛んでしまったが、ケアマネ協会という今回のようなご縁とはかけ離れた活動において実現したあの時間は、あらためて人とのつながりのありがたさや、大切さを身にしみるものとなった。

私たちの仕事は、当たり前ではあるが、1人でできるものではない。たくさんの人と交わり、他職種の専門家と協働し成り立つ。

専門的な知識も必要だが、経験の上に成り立つ知恵と、それを与えてくれる皆さんのご縁に感謝し、知識人よりも、知恵上手、交わり上手な人間でありたいと思う。

心とお腹が満たされ、会の終盤に、運ばれてきた食事をT氏に進められ、「ありがとうございます。もうお腹いっぱいです。」の一言に笑顔でT氏から「いいから全部食べ！」の愛の鉄拳！『これ！これ！！』と身震いする感覚。（ちょっと危ないかも・・・汗）

仕事と違う素敵な交流を与えてくれたケアマネ協会のご縁。

さあ皆さんも、ケアマネ協会でご役員として、新たな出会いに触れてみませんか？（笑）



平成 24 年度 さいたま市介護支援専門員協会

「通常総会 及び 創立 10 周年記念式典」開催日のご案内

平成 24 年 5 月 26 日（土）

事務局より

会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会・退会希望の場合は事務局までご連絡ください。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(社福)さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター

電話番号 048 - 645 - 7470

FAX 048 - 645 - 7500

さいたま市介護支援専門員協会 ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>